

7月のコラム ～アドバイスが機能するとき

月に一度ジェルネイルをお願いしている方が、ネイルコンテストに出ることを決意されました。私から見れば十分な技術とセンスをお持ちの方なのですが、どの世界も聞いて見ると奥が深いもので、さらに高度な技や新しい技術を常に学び、身に付けて行かなければなりません。ここ数か月、そのコンテストの準備がかなり大変なものであることを聞いていました。今日もその話題に及んだのですが、「コンテストに出ることを決めてから人の話が頭に入ってくるようになった」という興味深い発言が・・・なぜ？

コンテストに出るにあたり、他の時間を犠牲にして一生懸命練習に打ち込んでいるけれど、まだ上手くできない。もう時間がない。制限時間内にできるかどうか不安。そもそもコンテストに出る必要があるのか？とあれこれ悩みはつきません。コンテストに出るということは、講師になれる等ネイリストとしての将来の選択肢が広がるという目的があるようですが、先生に進められてのことで、スタート地点から迷いがあつたらしいです。それらの不安から、お客さんに色々と相談するようになりまして。すると、不思議なことにお客さんの経験談やアドバイスがずっと自分の中に入っていくようになったということです。今までもお客様の話はちゃんと聞いていたけれど全然違うのだそうです。

アドバイスというのは、「必要としているときに一番頭に入る」と勉強したことがあります。自分がこれでいいと思いついていたり自分であれこれ考えを模索しているときは、人の話を聞いてはいてもそれを自分が改善できるチャンスとして捉えることは難しいものです。一方「アドバイスが欲しい」と思っているときは、相手のアドバイスを受け取る準備が出来ているので、じっくり自分に落とし込んでいくことができます。

個人でされているので、サロンに二人きり。毎月、2時間から3時間、手を相手に委ねた状態でずっと向き合っているわけです。すでにある程度の信頼関係もできています。これってコーチングやカウンセリングに最高のシュチエーション！？双方そんな意図は持ち合わせていないけれど、彼女にとってはコンテストをきっかけにそんな場になっていたのかなと思います。年代も職業も考え方も様々な方と話をすることで自分の気づきがあったり、整理できたりできたのでしょね。

壁にぶつかったときに人は成長すると言いますが、これはきっと今まで取り込めていなかった意見や考えを取り入れることができるようになるってことなのでしょうね。コンテストは、7月11日だそうです。上手いきますように！

水田かほる 2022年7月